

活動の目的

来年は戦後 80 年を迎え、いよいよ戦争体験者から直接語りを聴くかたちでの体験継承は限界を向かう日は近い。そこで期待されているのが、博物館や遺跡や書物など戦争にまつわるモノを通した記憶継承や、体験者の家族や体験者の語りを聴いた者が体験者に代わって体験を語る「二次証言」の可能性である。

とはいえ、孫〜ひ孫世代にあたる現在の大学生以下の年齢層にとって、第二次世界大戦とはもはや歴史の一コマといえる感覚になっており、無関心が前提である。それにもかかわらず、大学生世代にも強い記憶を刻み付けるモノや証言はあるはずだ。重要なのは、そのようなオーディエンスの体験についての虚飾ない率直なデータを収集し、展示の担い手の方々の創意と苦労に対する深い理解をもたらすフィールドワークの方法の開発と実践である。

以上を踏まえて、本プロジェクトは、以下の 3 つの目的を設定する。

- ①SFC 生が、戦争・平和に関する博物館を見学した際の自己の体験を、一人称研究的方法で記述すること
- ②多くの戦争体験者の語りを聴いてきた博物館の担い手たちから、展示を作成する際の創意工夫や困難をインタビューを通して聞きとること
- ③調査①②を経て最終的に、20 代前後の「若者」の視点から調査成果をまとめ、博物館が立地する地域の方々にも発信していくこと。

なお本研究は特別研究プロジェクト B「ミュージアムをめぐる体験と生活史」として開講されており、清水亮担当科目の「研究会 A」に加え、「フィールドワーク法」の受講者有志の参加にも開かれている。

調査活動内容

1 日目 (9/18) 午前：

・地域で最も古い映画館・土浦セントラルシネマズの控室の土浦ゆかりの人物や作品に関する展示を見学し、寺内龍地支配人から地域をこえた来館者についてお話をうかがった。

・明治 28 年創業の奥井薬局の歴史に関するミニ展示コーナー、地域住民の交流サロン、子供向け図書室などを見学し、「土浦の自然を守る会」の活動でも知られる薬剤師・奥井登美子さんから、地域の自然やコミュニティを守る活動や、義塾や福沢諭吉先生とゆかりがあり、学徒出陣での海軍航空隊入隊者もいた奥井家のファミリーヒストリーについてお話をうかがった。

1 日目（9/18）午後：

・土浦市立博物館の常設展を見学し、見学体験に関するデータを収集した。その後、学芸員の野田礼子さんから話をうかがい、担当学生 3 名によるインタビューを実施した。

・古民家を喫茶店へと再生した城藤茶店にて、店主の工藤祐治さんの生活史や地域でのイベント開催などに関するインタビューを担当学生 3 名が行った。そのまま城藤茶店の常連客を交えた夕食会を開催し、自己紹介や 1 日の振り返りを通して交流を深めた。

2 日目（9/19）午前：

・阿見町立の予科練平和記念館にて、2 時間弱にわたり見学体験に関するデータを取得した。

・比較対象として、予科練出身者の戦友会組織が管理する雄翔館の展示も、同会の行方滋子さん・平野陽一郎さんの案内のもとに見学し、二次証言を聴く機会となった。

2 日目（9/19）午後：

・予科練平和記念館に開館準備期から携わってきた学芸員・館長補佐の山下裕美子さんにお話をうかがい、担当学生 4 名によるインタビューののちに、全員参加で意見感想交換をする座談会を開催した。

・かつて海軍の門前町として栄えた新町地区を通り、防空壕で多数の予科練生が亡くなり慰霊碑が建つ青宿鹿島神社を訪れた。

・土浦に戻り、料亭霞月楼の歴史展示や室内の歴史的物品について堀越雄二さんにご案内いただき、土浦ツェッペリン倶楽部の活動について説明をいただいた。その後、明治創業の吾妻庵の座敷にて、慶應 OB の堀越さんを囲んで夕食会が行われ、かつての土浦や慶應義塾についての語りをうかがった。

活動成果とその発信

・3 日目 9/20 に、土浦公園ビル内のギャラリー「がばんクリエイティブルーム」において調査をもとにした 3 班各 30 分のプレゼンを行った。関係者のみの公開で、傍聴いただいた地域住民 2 名からコメントをいただくことができた結果的に、戦争展示に限らず、地域の歴史や生活史に幅広く向き合う機会となった。

・なお 1 日目に茨城県南のネットニュースメディアの取材を受け、3 日目夕方に記事「慶応大の学生 10 人 土浦・阿見の博物館など巡り 歴史語り継ぐ方法を調査」が配信された。

(<https://newstsukuba.jp/53443/20/09/>)